

箕面新キャンパス外国学研究講義棟のご紹介



夢はバラ色

大内 一*

Introduction to the Foreign Studies Research & Lecture Building

Key Words : New Minoh Campus, School of Foreign Studies

箕面キャンパスは、外国語学部創立100周年となる2021年の春に粟生間谷から新船場地区に移転し新たに開学する。それに伴い外国語学部は、新築される外国語学研究講義棟で、よりいっそう力強く教育研究の新たな歩みを始めることになる。箕面新キャンパスは、外国語学部を核として、言語文化研究科言語社会専攻、同研究科日本語・日本文化専攻、日本語日本文化教育センター、学寮および外国学図書館が一体となって、グローバルキャンパスの名に相応しい国際的な活動の場となることが期待されている。また、新キャンパスでは空調設備、照明設備のスマート化の取り組みがなされ、省エネや二酸化炭素の削減などのための新技術が導入される予定である。

まずは、外国語学部が入る外国語学研究講義棟について簡単に紹介する。同棟は10階建てで、正面玄関は北側道路に面したファサードの中央部にある。広々としたエントランスホールの床と壁は白を基調にした石版張りで格調高いデザインとなっている。

エントランスホールの奥正面には、外国語部部の各専攻が選んだそれぞれの言語圏に伝わる格言や作家や詩人、哲学者などの名言を原語で彫刻した銘板壁が建てられる。エントランスホールの右側（東側）には大阪外国語大学記念ホール、左側（西側）には大講義室が設けられる。1階にはこの他に、キャン



外国学研究講義棟（右）と学寮（左）（イメージ図）



エントランスホールと銘板壁（イメージ図）



* Hajime OUCHI

1956年11月生まれ
大阪外国語大学大学院外国語学研究科
修士課程修了（1983年）、文学修士
現在、大阪大学言語文化研究科 言語社
会専攻 教授
専門はスペイン中世史
TEL：072-730-5358
FAX：072-730-5358
E-mail：ouchi@lang.osaka-u.ac.jp

パスライフ健康支援センター箕面分室、サイバーメディアセンター研究室、安全衛生管理部事務所、教育・学生支援部作業室、エコレンジャー室、スタジオや電気室、機械室などが配置される。



大阪外国語大学記念ホール (イメージ図)

2階は事務フロアで、外国語学部・言語文化研究科事務部が入る。同階には、外国語学部長室、言語社会専攻長室、日本語・日本文化専攻長室、会議室、印刷室が設けられ、スムーズな事務業務の実現が図られている。その他に、学术交流室、保健室、授乳室、メールボックス、学生相談室、就職相談室等が配置される予定である。

3階には大学生協の食堂と書籍部が入る。南ファサードには3階玄関が設けられ、南ピロティエを介してデッキレベルの阪大広場と連結する計画である。デッキ部の阪大広場は、大阪大学所有部と箕面市所有部に分かれているが、地域と連携した活動の場と



研究講義棟南面と阪大広場 (イメージ図)

して屋台なども出せるよう設計されており、学生生活の「夏祭り」の開催も可能である。

4階は中央部に中講義室と学生交流スペース、周囲にクリエイティブワークショップ室とアクティブラーニングスクエアが配置される。中講義室は、ダイキン工業株式会社との共同研究による教育環境のための理想的な新空調システムの開発の「実験現場」となる。置換換気システムの導入により空調の効率化が図られ、講義室内の二酸化炭素量を低く保って「眠気を生じさせない」講義室の実現が目指される。また、「香り」を活用した授業環境の創出も考案中であり、教員による「世界の香り文化」に関する共同研究とその成果を本講義室の機能を活用したりレクチャー講義をとおして学生に還元することも検討中である。クリエイティブワークショップ室はパソコン自習室とSmallシステムおよびCALLシステムによる語学教育用の教室である。アクティブラーニングスクエアは学生が個人あるいはグループで自発的に学習するための快適なスペースとなる。

5階と6階は講義室をメインとする階である。5階には24の講義室、同時通訳実習室、非常勤講師控室、学生交流スペース、留学生交流情報室が配置される。学生交流スペースは南側の日当たりのよい空間で、教員と日本人学生と留学生が自由に交流できるように設計されている。6階には31の講義室が配置されている。



学生交流スペース (イメージ図)

7階は日本語日本文化教育センターの専用フロアである。個人研究室、共同研究室、講義室、セン

ター長室、センター事務室、図書室、マルチメディア室などが配置され、同センターの機能がワンフロアに集約される。南側には阪大広場を見下ろすテラスが設けられる。

8階、9階、10階は外国語学部の専任教員（言語文化研究科の言語社会専攻と日本語・日本文化専攻の専任教員）の個人研究室と共同研究室、プロジェクトルーム、院生室、印刷室、教員交流室が配置されている。8階には日本語、トルコ語、フィリピン語、タイ語、インドネシア語、ベトナム語、ビルマ語、アラビア語、ペルシャ語、スワヒリ語、9階には中国語、朝鮮語、モンゴル語、ヒンディー語、ウルドゥー語、ドイツ語、ハンガリー語、ロシア語、10階にはデンマーク語、スウェーデン語、英語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語の個人研究室、共同研究室、プロジェクトルームが集約的に配置され、専攻語運営や共同研究の効率化が図られている。教員交流室は、10階南東角の最も眺望のよい部屋であり、教員間の日常の交流だけでなく、研究会や懇親会などにも活用可能である。

外国語研究講義棟の外に目を向けると、東側に建設される学寮との間に中庭が設けられる。この中庭は、イベント会場としても活用すべく、テント等が設置しやすいように設計されている。中庭と研究講義棟南側の阪大広場とは階段で繋がっており、「夏祭り」の際には両者を一体感を持って活用することが可能である。この階段と研究講義棟との間の空間には、大阪外国語大学の上八時代から受け継いでいる烈士の碑が移設され、大阪外国語大学記念ホールからは窓越しにこの烈士の碑を見ることができるようになっている。また、箕面キャンパスの学生にとって思い出深い世界時計もこの階段を降りた付近に移設される予定である。

外国語学図書館は、阪大広場を挟んで南に新たに建設される箕面市立船場図書館（仮称）と箕面市立船場生涯教育センター（仮称）が一体となった建物の一角を占める形で移設される。蔵書数は約60万



外国語図書館（船場図書館）（イメージ図）

冊で現状数を維持している。船場図書館と同生涯学習センターは大阪大学が指定管理者として管理運営を担当することになっており、これらの施設は箕面市民だけでなく阪大生も利用できる。生涯学習センターでは、大阪大学の研究活動で得られた成果や知見を活用した市民向けの生涯学習講座が実施される予定であり、外国語学部・言語文化研究科のOB・OG教員や大学院生などのマンパワーも必要になるであろう。

箕面新キャンパスは、大阪外国語大学以来の外国語学部の教育研究機能のみならず伝統と記念物を損なうことなくコンパクトな空間に集約されたスマートキャンパスとなる。現キャンパスの構造物はすっかり老朽化し、耐震工事も最小限ということで、教育・研究環境は普通以下の状況下であり、アクセスも、吹田キャンパスおよび豊中キャンパスと比較して最も不便であることから、新キャンパスへの移転は、施設、設備、交通の便のいずれの点をとっても向上をもたらすものであり、箕面の学生、教職員にとって歓迎すべきことがらである。唯一の残念な点は運動施設が失われることであり、箕面新キャンパスの体育会に所属する学生の活動場所や教職員の福利厚生施設を大学全体でカバーすることが肝要となる。